

### 事業承継とM&Aの推進

**問** 後継者不在で休廃業することにより市内の会社数が減少し、経済が縮小しないよう事業承継やM&A（企業の合併や買収）が円滑に進む取組を推進する必要があると考えるが、考えを伺いたい。

**答** 本市では事業承継に係る経費の助成のほか国が設置する長崎県事業承継・引継ぎ支援センターや商工会、金融機関等と定期的に意見交換を行うなど、事業承継の推進を図っている。事業承継の総合窓口である事業承継・引継ぎ支援センターにおいては年間400件ほどの相談、60件ほどの成約実績があり、そのうち3分の2ほどはM&Aとなっている。

本市としては、経営者の後継者問題に対する意識改革が課題であると認識しているため関係団体との連携を一層強化し、さらなる周知・啓発に注力し事業承継の推進に努めていきたい。

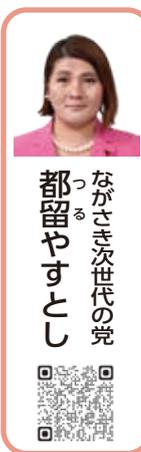


### 多様な学びの場の支援

**問** 自宅で過ごしている不登校児童生徒の学びの場や居場所づくりを進める必要があると思うが、考えを伺いたい。

**答** 不登校児童生徒へは、学びの支援センター「ひかり」や各学校に設置を進めている校内学びの支援センターにおける支援やフリースクール等民間施設との連携やICTの活用などによる支援を行っている。また、学習指導要領にとらわれず不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成した「学びの多様な学校」の設置を検討していくこととしている。

また、自宅から一歩を踏み出すことができない不登校児童生徒に対しては、仮想空間であるメタバースを活用して授業やカウンセリングを受けられるようなシステムを構築するなど、様々なニーズに応え、多様な学びの場の選択肢を増やしたいと考えている。



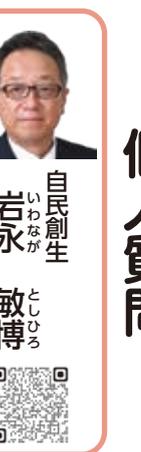
### LGBTQに対応したトイレ表示

**問** 市庁舎の多目的トイレにもLGBTQ（性的マイノリティ）の象徴であるレインボーのピクトグラムを表示して誰もが躊躇なく使えるよう取り組む考えはないか。

**答** レインボーのピクトグラム表示については、市庁舎の設計段階から市民団体等との意見交換やトイレメーカーなどが行ったアンケート調査結果をもとに検討を行ったが、表示の有無については様々な意見があったことから、最終的には表示に至っていない。しかしながら、性的少数者の心情を考慮するとともに、市内の施設においても、レインボーのピクトグラムを表示している事例があるため今後関係者の意見を聞きながら、みんなにやさしいトイレとなるよう検討を重ねていきたい。



▲レインボーのピクトグラムの一例



### 個人質問

#### 長崎あじさいペイの実績と検証

**問** 電子商品券「長崎あじさいペイ」について、実績と検証結果、今後の活用を伺いたい。

**答** 実績は、発行額約44億2,000万円、参加店舗数約2,800店舗、アプリ利用実人数約5万8,000人となり、事業者の売上増や消費者の生活支援に貢献したものと考えている。

また、あじさいペイは、コールセンターや相談窓口等の設置により高齢者も含めた幅広い年代の方々に利用され、市民や事業者のデジタル化の推進にも寄与したものと考えている。

今後のアプリの活用については、今回多くの事業者と市民に登録いただいたことから活用の具体例を全庁で共有し、協議するとともに、今後の国の経済対策に係る交付金などの状況に応じ、アプリを有効に活用できる施策を検討していきたい。

